



つばめきた

2026年度 No.3

2026年 5月27日発行

燕市立燕北小学校

学校ホームページ 2次元コード ↑



子どもたちの本気を大切に

校長 小川 泰文

子どもたちの活動に水筒が手放せない季節になりました。今年度は例年より早い時期に水泳学習を行いました。会場や日程で急な変更を行いました。関係する皆様のご協力ですべてを終えることができました。

本気にすれば たいていな事はできる。

本気ですれば なんでも面白い。

本気でしていると だれかが助けてくれる

この一節は、後藤静香氏の詩「本気」の書き出しです。子どもたちは、ひとたびスイッチが入ると純粋な「本気」を発揮します。だからこそ、スポーツでも、日々の学習でも、見違えるようにぐんぐん伸びていきます。

かつて、ある学級でこんなドラマがありました。25メートル泳ぐことを目標にしていたAさん。何度挑戦しても15メートル付近で失速し、どうしても壁を越えられずにいました。そして迎えた、夏休み前最後の水泳学習。Aさんは意を決して検定に臨みました。

がむしゃらに水をかき、20メートルを通過。最後は息を止め、残り3メートル、2メートル……ついにプールの壁に力強くタッチしたのです。

「息が止まると思った」

水面から顔を上げ、肩で激しく息をするAさんの顔は、涙と鼻水でぐしゃぐしゃでした。しかし、プールサイドで見守っていた仲間たちから、それをからかう声は一切上がりませんでした。全員がAさんの「本気」に圧倒され、心を動かされていたからです。プールサイドは、自然と沸き起こった大きな拍手に包まれました。

わたしたちの役割は、子どもたちのこうした「本気」を引き出すことにあります。可能性を信じてタイムリーにフォローし、背中を押す言葉を掛け続けること。「本気でやったらできた！」という成功体験こそが、生涯の自信になるからです。

振り返れば、わたしたち大人は「あの時もっと本気になればよかった」と後悔し、本気になれない自分と葛藤しながら生きています。だからこそ、純粋に本気になれる子どもたちの姿が、眩しく思えるのかもしれない。

冒頭の詩には、次のような続きがあります。

人間を幸福にするためにも 本気で働いているものは
みんな幸福で みんな偉い

地域の方々と連携した教育活動がスタートしています

様々な教育活動で、地域のボランティアや各種団体などの皆様からご支援を受けています。今年度も、子どもたちはたくさんの方々とかかわりながら、知識や技術を習得したり、人柄や生き方に触れたりして、学びを充実させています。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。

栽培体験

5月11日（月）に5年生が田植え体験を行いました。天候にも恵まれ、苦勞しながらも、予定していた作業を終えることができました。

5月15日（金）には1、2年生がサツマイモの苗を植えました。植え方のコツを教わりながら上手に植えることができました。

秋には稲刈りや、収穫した作物を調理するなどの体験が予定されています。



交通安全教室

5月12日（火）に交通安全教室を行いました。1年生は安全な歩行の仕方、3年生は安全な自転車の乗り方について指導を受けました。交通ルールの遵守について、ご家庭でも地域の状況に応じて、具体的な指導を行っていただき、子どもたちが主体的に安全な行動ができるようにしていきましょう。



コミュニティ・スクール

5月13日（水）に第1回コミュニティ・スクール委員会を開催しました。委員の皆様から、今年度の学校運営や委員会の活動についてさまざまなご意見をいただきました。今年度も、子どもと大人が夢を語る「夢語り」や、講師の方から職業観や生き方について語っていただく「キャリア講話」のサポートなどが決まりました。今後、活動について周知や報告を行っていきます。